

第5回江田島市公共交通協議会 (H23.2.21)

協議会議事録				
会議名	平成22年度 第5回江田島市公共交通協議会			
日時	平成23年2月21日(月) 14:30~16:20			
出席者	県立広島大学	名誉教授	のほら けんいち 野原 建一	○
	広島商船高等専門学校	教授	おかやま まさと 岡山 正人	○
	江田島バス株式会社	代表取締役社長	はすだ つとむ 蓮田 勉	○
	江田島バス株式会社	従業員代表	しらいし ひろし 白石 公士	○
	広島県旅客船協会	会長	にった いちろう 仁田 一郎	○
	株式会社ファーストビーチ	船員代表	たにぐち みのもる 谷口 実	-
	広島県タクシー協会江能支部	支部長	いまみや こうじ 今宮 浩二	○
	江田島市自治会連合会	会長	おがた けんそう 小方 憲三	○
	江田島市老人クラブ連合会	会長	いのこ よしお 猪子 嘉生	○
	江田島市社会福祉協議会	会長	おおつ かつひこ 大津 克彦	○
	江田島市女性会連合会	会長	くまくら まちこ 熊倉 町子	-
	江田島市観光協会	会長	なかしま まさる 中島 勝	○
	中国運輸局海事振興部旅客課	課長	おおしま はるゆき 大島 治之	○
	中国運輸局広島運輸支局	首席運輸企画専門官	やざわ しょうじ 八澤 昭二	代理出席 よしだ なみ 吉田 奈美
	広島県企画振興局地域振興部地域政策課	課長	やたがい ひでゆき 八谷 秀幸	代理出席 とくとみ あやこ 徳富 綾子
	江田島警察署	地域交通課長	しげむね ひろあき 重宗 博明	○
	市議会交通問題調査特別委員会	委員長	とち やすのり 登地 靖徳	○
	市議会産業建設常任委員会	委員長	えびす まさのぶ 胡子 雅信	○
	江田島市	副市長	しょうい よしあき 正井 嘉明	○
	江田島市	総務部長	どて さんせい 土手 三生	○
江田島市	土木建築部長	こうの きよし 幸野 潔	○	

1 開 会	
事務局	開会宣言
2 会長あいさつ	
会 長	あいさつ
3 議長の選任について	
事務局	野原委員を議長に選任
4 協 議	
(1)「西能美航路の合理化・効率化」に伴う実証運航後の方針について	
事務局	－資料1により説明－
議 長	質問や意見はないか。
委 員	<p>今日初めて終了後の方針を見たが、まだまだこれでは今日は結論を出せる状況の文面ではないのかと思う。特に両航路の運航事業者の意向を踏まえということで、前回の会議で運航事業者とどの程度まで話が進んでいるかという質問をしたが、今日こういう方向の中で、今後両航路の事業者と協議をするかどうか。</p> <p>いろいろ調査した中で一番住民が思っていることが運賃のこと。これが三高フェリーも中町高速船もちょっと厳しい満足度になっている。これももう少し検討していかなければならない。</p> <p>便数については先般も意見があったが、ダイヤ改正の要望は両航路ともあるが、特に中町航路も実証運航して、利用者がどの程度利用されているのかというのを企業局の方で集計をとったものがあると思うが、そういった面も配慮しながらより良いダイヤ改正を今後お願いできるのか、それとも今日の結果で4月以降もこの便で行く、ダイヤ改正も料金改正もせずにこの表のとおりでやるのか、その辺を伺いたい。</p>
事務局	<p>前回の協議会で話した両航路の事業者との協議について、その際に前回のときに出ていたデータ等を用いて話した。アンケート結果等では運賃の部分で不満が出ており、その部分をどうするかということに関しては、収支がはっきり出ていなかったが厳しいということはわかっていたので、運賃についてはギリギリのところであると聞いている。今回収支も提示し、運賃をさらに下げるのは難しいであろうと思ひ、そのままいくという案を提示した。</p> <p>便数・ダイヤ改正等についてどの程度まで出来るのかということだが、アンケートで見た限りには満足度はかなり改善されているのではないかと判断をしている。若干の微修正は出てくるかもしれないが、基本的に現在の実証運航の形をそのまま継続したい。</p>

<p>委員</p>	<p>資料には収支面で大赤字ということが書いてある。両方のいろいろな条件の中で、クレアラインを利用する方も増えてきているが、利用者が思った以上に減少していることもあり、この実証運航がそのまま平成23年度も運航されても赤字解消にはならないと思う。</p> <p>平成24年4月からどうにもならないから料金アップをせざるを得ないと言われかねない状況だが、先般どのあたりまで業者との話し合いの中で話が出たかということ、分かれば教えてもらいたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>前回両航路事業者との話に出ていたのは、予測できなかった点として燃料がリッター5円上がったということ。かなり厳しい状況だが、推移を見ていかないと現段階で予測するのは難しいという話があった。ただ、それがあるので運賃をあげるというようなことは、考えていないということのようであった。</p> <p>社会情勢の変化等も見えていかないといけないので、今後継続して航路運営の在り方を考えていかなければならないという話であった。</p>
<p>委員</p>	<p>今回の実証運航について、これを元に戻すのか、それともその方向でいくのかという二者択一で言えば、こういう形態を維持したままいくというふうには言わざるを得ないのではないかと。期待した効果に関して、人についてはほとんど芸備商船の航路へ移行していない。フェリーから高速船への乗換は、多少はあったものの、それでも全体が下がっている。もっとひどいのは車で、思ったように移行していない。ということは道路・橋へ流れる車が非常に多かったということ。このままの状態ですべてやっつけられるのかというと、非常に不安が残る。</p> <p>今後のことについては、前回も説明があった、県の考えている各航路への補助制度の問題。これが県と市町との共同での支援を前提に、県内でも10航路ほど選択されているが、この補助がどういう形になるのか。あるいは来年以降、交通基本法が国の方で制定されるとなると、この動きによって国・県・市のそれぞれの役割というのが決まってくるのだが、これも先が見えない。それから来年度国の予算では、公共交通サバイバル予算ということで、305億円ほど交通基本法絡みで付けてもらっているが、これも既存の完全離島の補助率が若干上がるということで使い切っているの、本市のような完全離島ではないところへまわってくる金はないということで理解している。</p> <p>結論を言えば今の形を維持するのだが、それだけでは足りない、今後の対策を十分に取らなければならない。完全離島の場合は補助率も上がるが、国の計画では中途半端な離島、いわゆる「橋や道路で繋がってはいるが、非常に大回りになる地域」が特に広島県には多いのだが、そういったところへの位置付けがなされていない。これに対し、市や協議会としても、どんどん県を通じてでも国に直接でも、意見を上げてもらいたい。</p>

<p>委員</p>	<p>先程の委員の発言で、三高航路に流れた部分はないということであったが、実際にはいくらあっても、以前の経営を支えられるかという、やはり赤字であると、そういう意味で陸路に流れた方が多いということではないかと思う。</p> <p>我々の団体の中でいろんな人に聞いてみるのだが、運賃にしてもダイヤにしても、個人的希望による意見が多い。本当のところを掴みかねているが、合理化・効率化の意義は相当あるにはあった。それは協議会の方針の中で、もっと積極的に表現して良い部分ではないだろうか。芸備商船の9千万円の赤字が4千万円程度に落ち着いた。企業局と合わせてもマイナスの赤字かもしれないが、燃料費高騰の問題があってこういう結果になった。合理化・効率化の意義がある部分は認め、情勢の困難さも数字に出てきたということを感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>三高航路を何とか残したいという目的があったが、これが本当に何とかならそうだという目処がつくのであれば、また多少赤字が減るのであれば、続けていこうかなと思うのだが、一生懸命やったが結局三高航路もなくなったということであれば、ちょっとつらいと思う。もちろん、いろんなことをトータルで考えないといけないので、三高航路のことばかり言うわけにもいかないが、その辺はこの赤字を見ると少し懸念するところではある。</p> <p>先ほど話があったように、ある意味では成功しているのだろうなという感想を持っている。ただこれで三高航路が本当に存続できるのか。思ったより車両が増えていない、これが本当に道路・橋の方に行ったのか、それとも出かけるのを諦めてしまったのか。どこかに流れているのであれば将来を見通す上では良いのだろうが、出かけるのを諦めたというのであれば、モビリティの確保という意味では少しつらい。</p> <p>私としては何とかこれでやっていけば良いのかなと思う。もう少しいろんなところをやりながら、出来る範囲内でサービスの向上を進めてもらえば良い。ただ、これで決まりということではなく、出来ることはまだたくさんあると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>広島市など外部から来られるお客様に話をお聞きした。桜島フェリーの船長以下スタッフの皆さんは、非常に態度が良くて礼儀が正しくて明るくて、そういう教育を十分されており、さすがは観光地、お客様をおもてなしするということがきちり出来ている、といったことをお聞きしている。</p> <p>我々の航路は生活航路であるが、生活航路だけでは今のままではどんどん人口が減るばかりで採算に乗りにくいと思う。交流人口を増やして、新しい体験型の旅行を楽しむ。先日勉強したのだが、修学旅行をこの島に呼びこみ、例えば漁師と一緒に漁に出て、釣った魚を料理して食べてという体験を通じて子供達に生きる力を与えるというよう</p>

	<p>な、大変いい話であった。また来年はドラマの影響で平清盛ブームが来る可能性があり、どっと広島周辺にお客様が来られるかもしれないが、何も支度をしなかったら誰も来ない。そういう話を聞いて、我々もしっかりしなければならないと感じた。</p> <p>そういったことを考えると、やはり船に乗って江田島に行ってみたい、江田島航路のあの船に乗ってみたいということを感じてもらえるように、ホスピタリティを高める必要がある。船員さんをはじめ皆が本気で、給料はお客様から頂いているんだという気持ちで、船員さんの制服からはじまり、態度や笑顔での対応、「おはようございます」「いらっしゃいませ」「ようこそ」といった実直な挨拶が大切である。交流人口を増やすためには、特に船のお客様に対する態度、これを各社ともしっかり教育してもらいたいと思う。</p> <p>天応～切串航路は非常に良くなっていると聞いている。いいところをお互い切磋琢磨し見習いながら、「江田島航路は気分がいいよ」というふうにするのも、旅行客を増やすひとつの方法ではないかなと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>いろんなアンケートの結果を見ると、一応ここに出されている結果については、概ね当初から予測されているような結果である。運賃については、100人に聞けば100人が安いほうが良いということになるかと思う。資料にあるグラフを見ると大した満足度の広がりもないが、仕方ない部分もある。</p> <p>先ほど委員が言われたように、三高航路の維持の問題がある。合併前の旧町単位の4つの自治会により、自治会分科会を立ち上げるよう要請し、自治会独自に協議させてもらった。中町・高田航路のフェリー6便、これは生活航路であったが、この6便を三高航路へ持っていくということで、能美町の住民にとってはいろんな抵抗もあったが、4町の自治会連合会においても、この4つの町にどうしても港がなければならぬということで、均衡・平等の立場から、苦渋の選択と言えば大袈裟かもしれないが、運賃についても手立てをいただき、皆さんの了解をいただき、6便を三高航路に集約することに賛成した。</p> <p>これは三高航路を維持するためということが大前提であったが、それを持っていても三高航路については全く増便などの住民サービスがなされていないので、それについては沖美町の住民からいろいろ苦情や要望を聞いている。そこら辺りを踏まえて、今後この協議会で検討されるようであれば、事業者にも要望してもらいたい。</p> <p>資料1の最後の部分については非常にデリケートに考えているのだが、航路資源の共有化は、公設民営化という言葉を目にするが、そういうことをこうした表現にしているのかということも、多少疑っている。そういう面については今後さらにこの協議会でも継続的に協議していくよう、事務局にも配慮してもらいたい。</p>

	<p>これまでの実証運航の結果については、航路数あるいは時間帯等について、満足度が上がっているのので、概ねこれで良いのではないかと。</p>
委員	<p>事業収支を見ていて、先ほど三高航路の便数が変わっていないという話があったが、当初この協議会が立ち上がった平成21年に、芸備商船が2隻体制を1隻に減船し便数を減らしたいと、中国運輸局経由で市・市議会の方へ話が出ていた。実証運航をやるという中で、見込みで15,922千円の黒字が出るのであれば2隻体制が維持出来ると期待していたのだが、この2月、ふたを開けたところ、45,504千円の赤字が発生している。今後4月からの体制について、実証運航をそのまま本格運航するという案が出ているが、果たしてこの4月以降、このように赤字が続くようであれば、また芸備商船が今の2隻体制を維持できるのかどうか、もしかしたらいつのタイミングかで減船せざるを得ないという判断が出るような気もしている。個別の事業者の話になるので、今ここで回答するという事はないと思うが、4月からの本格運航に際して懸念するところである。</p>
委員	<p>個々の会社の経営判断については申し上げかねるが、来年度から県が生活航路の補助に5千万の予算をつけられると聞いている。県内で10航路という中にこの航路も候補に挙がっているが、県は仮にこのような状態の収支であるとして、どういう補助をするつもりなのか。来年度以降の各事業者の経営計画あるいは便数の計画等を考えるに当たって、その辺の事を早く示してもらおうということも重要になってくる。</p>
委員	<p>県では来年度、航路に対して新しい補助を考えている。予算は委員の言われるとおり、5千万円の規模で考えている。ただ、詳細については制度設計中であり、江田島市内についてもどこが対象になるのかということも制度設計中である。そもそもこの制度を考えたのが、どの航路事業者も苦しい状況であると伺っており、島嶼部は人口の減少もあり、将来にわたって航路が継続できるようにということを念頭において考えている。経営が苦しいというのはどの会社もそうだが、苦しいからといって対象になるかどうかという点、もしかしたら若干違う部分、期待に添えない部分があるかもしれない。</p>
議長	<p>4月以降の問題については、実証運航をそのまま本格運航していくということで承認いただき、そしてスタートしてからの課題等についてはこの協議会で継続して協議していく、ということによろしいか。</p>
	<p>(異議なし)</p>
<p>(2)「交通空白不便地域への移動手段の確保」に伴う実証運行後の方針について</p>	
事務局	<p>－資料2により説明－</p>
議長	<p>ご意見、ご質問をお願いしたい。</p>

<p>委員</p>	<p>概ね変なところはなかったと思う。老人クラブに加入しているのは1/3程度。高齢者と言っても60歳代から90歳,100歳以上の方もおり,要望・意見を聞くのが非常に難しいのだが,新年度に入って調査をするようなことがあったら,老人クラブにも声を掛けてもらえば調査に協力したい。ただ,いろんな機会を捉えて皆さんの声を聞くが,声の大きい方の意見が表に出てしまう。その中には乱暴な意見もあったが,乱暴故に良い事を言っているなという意見もある。</p>
<p>議長</p>	<p>高齢の女性の方は多分利用される方が多いと思うが,そういった方は声が小さい。上手に拾っていくのは難しいことだと思うが,ぜひ拾ってもらえればと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>バスやデマンドタクシーの話をするときに,ここのメンバーはほとんど自分で運転も出来るが,その元気な方が少し先の事をしっかり考えなければいけない。先ほどの委員の発言は実際に生の声を言われている。私たちも今から進める上では大いに一致協力して進めていかなければならない。本当に誰もが必ずそこへ行き着くので,真剣にこのことを考えておかないと困るだろう。自分のことに置き換えても,ちょっと買い物に行ったりお風呂に入りに行ったりするのにも,さあどうしようかと思う。先の生活のことを考えていかないといけない。</p> <p>また,食わず嫌いのところがあるので,1回乗ってもらって便利であることを実感してもらうこともひとつの方法である。今のお試し乗車券のような形も良い。あるいはデマンドと路線バスは切っても切れない関係で,デマンドに乗ってもらってバスに乗ってもらって買い物なり広島市・呉市へ行かれるのもいいかと思うので,デマンドとバスとの乗継券というものが今後必要になってくるのかなという予想をしている。そういったときに規制も問題もあり,その辺を協議会で提案してもらって,住民の皆さんが利用しやすい,あるいは生活しやすい形になっていく,そういう物の決め方がいいのではないかということで,そういった思いで協議させてもらっている。</p>
<p>議長</p>	<p>高齢の女性の方には免許を持っていない,あるいは車を持っていないという方が多いので,そういう意味で利用しやすいような要望をきめ細かく聞くことが大事だと思う。引き続き実証運行を行うのは大変良いことだと思うので,配付予定の無料乗車券も大事だが,地域の交通アクセスとしてぜひ活用してもらいたい。他にないか。</p>
<p>委員</p>	<p>無料乗車券を配付するというので,各登録世帯に1乗車券ということになっている。今登録されているのがおそらく187世帯だと思うが,例えば利用される方が1世帯に2名いる場合には,それでも1世帯に1枚なのか。</p> <p>また半年間引き続き実証運行をするということで,スケジュールであるとか便数であるとか,そういった改善点については,これまで10</p>

	<p>月から2月までやってきて、利用者が目標に達しないから改善するということであろうが、実際4月から半年間実証運行を行うにあたって、今行っている実証運行の目標が収支率20%、1日の利用者数16人ということになっているが、4月以降の目標はどう考えているのか</p>
事務局	<p>無料券については、今は1世帯1枚で考えているが、また要望があれば考えていくこともできようかと思う。目標に関しては、基本的には変えるべきではないかなと考えている。当初に掲げた目標に全然達していないので、まずは達成することが大切かなと思っている。</p>
委員	<p>三高の86歳のおばあさんは、自分で予約して、何もかも自分でされる元気な方なのだが、是長口で路線バスに乗り継いで大柿方面に行かれる。今は利用しない方も、この先利用する場面も出てくるだろう。</p> <p>デマンドタクシーというものは、私の認識では交通空白という状態になったときに初めて出てくるものだと思っている。実績ということになると、ちょっと難しいと思う。これからどういうふうに形が変わってくるのかというのを見てもらいたい。</p> <p>今ここまでやってきて、今後どういうふうにやっていくべきなのか、利用者が少ないと言われれば耳が痛いことではあるが、私はそういう認識ではない。もう少しデマンドタクシーというものを認識してもらい、どういうふうにしていくかという意見を出してほしい。</p>
議長	<p>それは、利用促進に向けて、行政がこれから進めていく方策について聞いているのか。</p>
委員	<p>私の認識だが、本来は路線バスをなくしたときに、地域住民にとって公共交通がなくなったらどうするのかという段階で、デマンドタクシーというものが発生するものだと考えている。</p> <p>実績がどうだと言われたときには、目標は達成できないだろうなというのが本心。このまま走らせるためにはどうしていきべきか、そういったことをみんなで考えていけばよいのではないかな。いろんなケースが考えられるので、いろんな知恵を出してやっていけば良いと思う。</p>
事務局	<p>基本的に、デマンドタクシーの今の形は、路線バスを補完するものとして、重要な役割を持つものだと認識している。ただ江田島市の場合に、本当の意味での交通空白地域も現存しているということがある。路線バスも改善しなければならぬ、それから本当に困っているところも助けなければならぬ、その辺りでどこから手をつけていかなければいけないかと言うと、今は路線バスの改善をしながらデマンドタクシーの役割も重視していくというような、移行していくタイミングかなと思っている。ただ、デマンドタクシーの周知が十分ではないので、この実証運行をもう少し続けて、それが浸透していけば、本当にバスがなくて困っている地域にも広げていきたい。</p>

<p>委員</p>	<p>住民の方は良いことを言われるのだが、例えばバスがあれば良いと言われても、実際には乗ってくれない。いざ実行すると問題が出てくる。それは数字を見てもわかる。バス路線があるところにデマンドタクシーを重ねて運行するのは難しいように感じる。バス路線がないところにデマンドタクシーを走らせれば住民の方は大いに役立つのだが、バス路線があるところに走らせれば今のように乗ってこない。注意したいのは、高齢者の方には記憶力の問題などもあり、毎日何時に行こうというのであれば分かりやすいのだが、今のように週2日で予約が必要ということになると、利用するのが難しいのではないかな。</p> <p>今の社会情勢を見ていると、もう少し考え方を変えなければならないのではないかな。かつて「大原航路」というものがあり、朝2便・昼1便・夕2便あったと記憶しているのだが、住民の方はそれに合わせて利用していた。高度成長期に入り住民の方の意見を聞いて、今のままでは時間が空き過ぎるということで新しい航路を入れた。そして段々と福祉が充実してきて、かゆい所に手が届くといった流れになっているのだが、これからは収支の面も出てくるし、自治体にも十分に資金がないので、今あるバス路線や航路で、住民の方にはそれに合わせた生活体系・運用方法を考えていかないと、なんでもかんでも住民の方の便利が良い方向にということになると、うまくいかないのではないかな。デマンドタクシーをやってきて、改善するよりもそういった方向が良いのではないのかなという私なりの思いがあり、申し上げた。</p>
<p>委員</p>	<p>デマンドタクシーは方向性としては必要なことで、完全黒字は難しいにしても、これなら出来るという方向を目指すということで、実証運行を継続するということだと思う。</p> <p>この車両はリースだが、土日は使われていない。デマンドタクシーの範囲外でも、土日に何とかうまく使えないか。観光客用に周遊コースを作るとか、本来の目的とは違うが、いくらかでも収入になって、平日の負担を減らす。そういうアイデアがあってもいいのではないかな。うまくいけば各地区に1台ずつ配置して、毎日運行するといった発展が出来るのかどうか。土日の有効活用も検討してみてはどうだろうか。</p>
<p>議長</p>	<p>土日に対するニーズは、安芸高田市などでも非常に強いものがある。イベントなどがあるときに、そこへ行きたいという要望もあるようだ。そういったアイデアは、単に観光入込客数を増やすという目的だけではなくて、いろいろ考えられると思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>デマンドタクシーについては、皆さんが概ね重要性・必要性を感じていると思った。</p> <p>大崎上島町には「おと姫バス」というコミュニティバスが運行しているが、高齢者の方は意外に乗り方がわからないと言われる。お試し乗車券は良いのではないかなと思うが、出来ればちょっと頑張ってもら</p>

	<p>って、1枚だけではなく何枚か出してもらいたい。</p> <p>可能かどうかわからないが、他の施設にも協力してもらおう。例えば無料乗車券を使って来られたお客様にはサービスしてもらおう。それにより利用促進というか、利用経験者を増やしていくということは、すごく大事なことである。そういった気の利いたアイデアを使えば、宣伝にもなる。ドーンとひとつ花火を打ち上げて、使ってもらおうという発想をしたらどうか。こういうものがあるのは知っていても、高齢者の方は新しいことをするのになかなか勇気がいるし、精神的な負担も大きい。そういった仕掛けで引っ張り出すということが大切だと思う。その中でいろんな意見も出てくると思うので、まずは利用促進というか、利用経験者を増やすということをやっていけば良い。</p> <p>実証運行を続けるということで、まだ期間はあるので、月1回くらいでもそういったアピール出来るようなことをやってもらい、利用する方を増やしていく。そういうことをいろんなところに協力してもらいながら、新しい発想でやってもらったら良いのではないだろうか。そうすれば、デマンドタクシーを走らせていない他の地区の方にも、こういうものがあるんだなということを知ってもらって、次のステップで別の地域でやるときに、こういうものなんだなという認識をもってもらえる。</p> <p>せっきやくの実証運行なのだから、いろんな人に使ってもらって意見を出してもらい、それを吸い上げるというのは非常に大事だと思う。成功するものばかりではないかもしれないが、使ってもらおうということを頑張ってもらいたい。</p>
議長	<p>それでは、デマンドタクシーについては、今年度も実証運行を続けるということで、承認されたということとする。</p>
	<p>(異議なし)</p>
<p>(3) 平成22年度歳入歳出予算の決算見込みについて</p>	
事務局	<p>－資料3により説明－</p>
議長	<p>これに対する意見はあるか。</p>
委員	<p>歳出の予算現額と支出額の比較、これはおそらく全部の項目でマイナスがつかなければならないはず。歳入はマイナスとなっているが、歳出もマイナスとなっていないといけない。これは公共交通協議会の正式な資料であり、後にホームページに掲載する公的資料となるので、訂正してもらいたい。</p>
議長	<p>この件は事務局で処理させてもらう。</p>
事務局	<p>(了解)</p>

5 その他	
委員	議題については、当協議会で方向性が示されたわけだが、当協議会として、市や市議会に対し、どのように説明していくのか。また協議会は本年度はこれで終わりということだが、平成23年度もデマンドタクシー等の協議が必要なわけで、来年度の予定が現時点でわかれば教えてほしい。
会長	本年度から市議会代表として2名参加してもらっているので、委員から市議会への説明はあろうかと思う。全員協議会等でこれまでも公共交通協議会の様子についてつぶさに説明させてもらっており、今後もしのように進めさせてもらいたい。
議長	今後のスケジュールについては、後日改めて委員に連絡するということとさせてもらいたい。先ほど指摘のあった会計処理の仕方についても、日を改めてということではよろしいか。
事務局	先ほどの決算見込額の資料については、修正したものを改めて各委員へ郵送させてもらおう。その修正の仕方については、帰ってよく確認して、資料を作り直したい。
委員	秋月～呉航路について、前の事業者（大昭汽船）が撤退し次の事業者（バンカー・サプライ）が運航しており、市からの補助金なしで十分やっていけるということであったが、今どんな状況になっているか、分かればお聞きしたい。
事務局	従前とほぼ同程度の利用者数と聞いている。
委員	いずれにしても航路というのは、我々の生命線である。今後についても皆さん大変心配しているし、「維持・継続」よりもっと利便性を高めて、島民が航路を利用して広島市や呉市へ自由に行けるということをつらつらこれから実験的にしていかなないと、この島の発展はない。 さっきからちょっと気になったのが、合理化が一番良いだろうという方向で協議し、フェリーを三高航路へ一元化して赤字幅が改善されたということであったが、芸備商船から「やってみたが採算が合わない。こんなに燃料費が高騰するとやっつけられない。したがってこの航路をやめる、あるいは減便する。」と言われた場合に、我々市民とすれば大変困る。芸備商船にこのままフェリーの1航路を任せて大丈夫なのかどうか。担保出来ないとは思いますが、非常に気がかりである。能美町交通局の頃のように、市企業局が乗り出して、何とかこの航路を死守しますよという覚悟で臨まれるのかどうか。駄目なら仕方ないということでフェリー1航路がなくなるのであれば、これは大変なダメージを受ける。江田島市全体にとっても大きなダメージであると思う。広島市との連携・交流がうまくいかない限り、この島の発展はないと言っても過言ではない。この航路をきちんと守れるようお願いしたい。

<p>会 長</p>	<p>三高航路の心配は市としてもしており，協議会の中でも共通の認識をしているのではないかと思います。ぜひとも三高航路の存続をお願いしたい。どのようにしたら継続できるかということを，協議会の中でも知恵を出さなければならない。市としても，当然予算を伴うわけであり，市議会の応援をいろいろ受けないと実現できないので，その辺も協議の中に入ってくる。市議会の方からも，交通問題調査特別委員会があるので，いろいろ意見をいただきたい。</p> <p>先ほどもあったとおり，県も新たな生活航路の補助事業を提案している。市もそれを受けて検討していく。今後市議会に説明し，補正予算要求を行っていく。1/2 補助となるので，県と同程度の補助をすることとなる。あるいは赤字が出ている航路はどういう形で補助することになるのか，県からは具体的なことは検討中ということだが，具体的な事業が正式に決まれば，そういうこともひとつの支援になるのではないかと考えている。</p>
<p>6 閉 会</p>	